

島根県済生会江津総合病院における 抗菌薬適正使用支援チーム ～チーム設立前後の変遷と活動開始後の短期成績～

の むら はじめ たけ ぼやし まさ たか
野 村 肇¹⁾ 竹 林 正 孝¹⁾
つね まつ めぐみ
恒 松 愛²⁾

キーワード：抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team：AST），
短期成績，プロセス指標，アウトカム指標

要 旨

当院における抗菌薬適正使用支援チームについて，チーム設立前後の変遷から活動内容の詳細，活動開始後2年以上経過した短期成績などを報告する。メロペネム投与前の血液培養採取率や投与後の最適化もしくは狭域化率，特定抗菌薬の使用届提出率，黄色ブドウ球菌血症や真菌血症における血液培養陰性化確認率，抗菌薬の使用密度，肺炎や腎尿路感染症患者の死亡率などの活動指標項目において，良好な変化が認められた。一方で，バンコマイシンの血中濃度モニタリングが半数程度の実施に留まっていることや，キノロン系抗菌薬の不適切使用による使用密度上昇，データ解析に関する検討事項など，幾つかの問題点も見出すことができた。我々の活動が一定の成果を上げていると考えられるため，地道に継続することで抗菌薬適正使用をさらに推進していきたい。また，データの蓄積や解析を詳細に行うことでの確かなフィードバックを行い，エビデンスに基づいた活動を推進していきたい。

はじめに

世界は今，薬剤耐性（AntiMicrobial Resistance：以下 AMR）の危機に晒されている。2015

年に世界保健機構（World Health Organization：WHO）が提唱したグローバルアクションプランを受けて，我が国においても2016年の感染症対策閣僚評議会で AMR アクションプランが採択された。アクションプランの骨子の一つに「抗微生物薬の適正使用」が掲げられたことで，我々はこれまで以上に AMR における諸問題を理解し，抗菌薬の適正使用を意識するようになった。

Hajime NOMURA et al.

1) 済生会江津総合病院外科

2) 同 感染管理認定看護師

連絡先：〒695-0011 島根県江津市江津町1016-37

済生会江津総合病院外科